

情 報

ボランティア活動について

はじめに

ボランティア (volunteer) とは、「自発、決意、自由意思」などの意味をあらわす、ラテン語 voluntas に語源を持っています。「志願者」、「義勇兵」を意味することもあり、何らかの能力をもって自発的に奉仕する人ということです。そもそもボランティアの必要性が叫ばれたのが12年前の1月17日、6300人を超える人が一瞬のうちに、犠牲となった、阪神淡路大震災が起きてからで、「ボランティア元年と」形容されるほど、ボランティアに対する熱い注目が集まりました。130万人とも伝えられるおびただしい数の人びとがあの大災害に苦しむ街に入り、献身的なボランティア活動に日夜活躍したことは、マスメディアによって伝えられ、日本中の人びとに深い印象を刻み込みました。本県も2年前の7月13日 三条大水害、10月23日 中越大地震、と立て続けに1年に2度もの災害に見舞われボランティアの力なしでは立ち行かない惨状であったことは過言ではありません。本学も今年、ボランティアの科目が歯科技工士学科教育課程に組み入れられ立ち上がりました。

できることからボランティア

子供の健やかな成長を計り知る手段として「手型模型作製」が大事な一役を担っています。新発田市歯科医師会主催の生涯学習センターでの「むし歯予防週間公衆衛生事業」、そして、胎内市実行委員会主催のほっとHOT・中条での「2006. ほっとHOTまつり」、さらに、三市中東蒲原郡歯科医師会主催の亀田アピタ店での「歯科健康フェア」などで活躍しました。また、ボランティアセンターから情報を頂き、障害者の方に対しての対応の仕方や高齢者施設での実践活動、障害者スポーツ体験、車椅子介助法、ミニ手話講座などを体験するために、「夏休みボランティア体験学習」、や「ボランティアガイダンスはじめの一步」、「障害者大運動会」、「新潟駅バリアフリーボランティア」、「障害者スペースBe祭」、「新潟県障害者芸術文化祭」に参加し、協力してまいりました。



図1 新発田市 生涯学習センター
手型模型作製風景



図2 新発田市 生涯学習センター



図3 胎内市 ほっとHOT中条

情 報

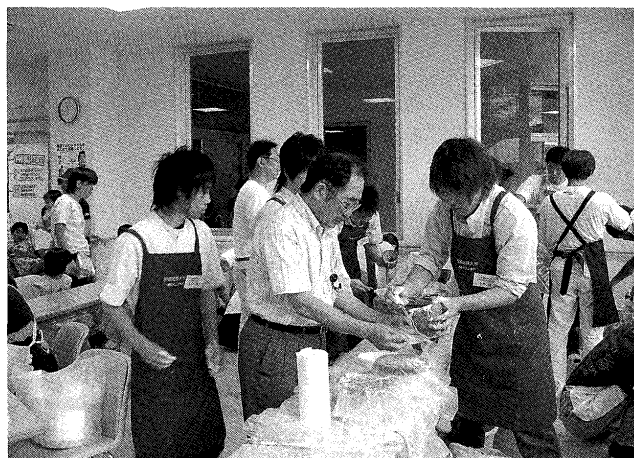


図4 胎内市 ほっとHOT中条
手型模型作製風景



図5 新潟市 陸上競技場
障害者大運動会風景



図6 新潟駅バリアフリー
研修風景

活動した学生の声

- ・人々の役に立つことができたり、先輩との交流ができてよかった。
- ・他人と協力し合うことや、積極的に働くことの必要性を知る。
- ・ボランティア活動は助けてあげることと思っていたが、助けられることもあり、お互いに助け合うことがある。
- ・信頼関係は積み重ねにより築かれる。また人との触れ合いが大事なんだと気づく。
- ・障害者との交流ができてよかったし、福祉に興味を抱く様になる。
- ・純粋に何かを取り組むことの大切さを忘れないようにしたい。

おわりに

ボランティアを選択した学生たちは、この活動を通して、貢献したことの充実感や、多様な価値観にも触れ、ただ単に単位修得目的のみの奉仕ではなく、かけがえない人生経験をしたと思います。

ボランティアが身につけていく大切な要素とは自発的に主体的に生きる力、他者を思いやる心、共感する心が育まれていかなければならない。よって、これまで以上の意識的な努力が注がれることが必要になります。

基本的には「自分を愛するように他者を愛する心」を、より大切にしていきたい人、あるいはそのような生き方を受け止められる人が育つことで、学びとる機会が心豊かにしていくことは「ボランティアの心」が社会に満ちていくことに深く繋がっていくと思います。

(文責 中澤孝敏)

三越新潟店における「歯の健康フェア」への参加

新潟市歯科医師会主催、新潟県歯科衛生士会新潟支部、新潟県歯科技工士会新潟支部、新潟市栄養士会、新潟大学歯学部が参加した「2006 歯の健康フェア」に明倫短期大学歯科技工士学科2年生20名、1年生21名、生体技工専攻科2年生5名、1年生2名計48名の希望者がボランティアとして参加した。

昨年に引き続きこのフェアに参加し、学生が大学では経験できないことを体験でき、歯科技工士の会員の方とコミュニケーションが取れば、就職活動等に役立つと思い新潟県歯科技工士会新潟支部にお願いし、今年は合同準備会議から参加した。

参加希望学生48名を1グループ12名、3時間ずつ4つ